

佐高・国際人ファイル**台湾での10ヶ月の留学体験**

高校1年2組

兵藤 賢

兵藤君は、高校1年の夏、国際ロータリーの「青少年交換留学プログラム」に応募し、2014年8月末から2015年6月末までの約10ヶ月、台湾の台中市にある「弘文高級中学」(=日本の高校に相当)に留学していた。留学先の学校では、1日2時間の中国語の授業の他、体育、音楽、美術などの授業も受け、陸上クラブにも所属。また、留学中は3つの家庭でホームステイし、それぞれのホストファミリーとの出会いに加え、世界中から台湾に集まった多くの留学生との出会いがあった。こうした多くの出会いが、兵藤君を大きく成長させてくれた。

自分でさえ驚く考え方の違い

兵藤 賢

台湾へ行き、多くの留学生と出会った。異なる国から集まった彼らは、語学力が高く、個性的な人が多かった。普段、話す言葉はもちろん英語。初めはちっとも面白くなかった。本物の英語に触れ、初めてその大切さを知った。だが、話せるようになると、これが驚くほど楽しい。共に映画や音楽を楽しみ、笑いあえる。こんなに素晴らしいことってあるだろうか。日本でこんなことは一度も想像したことはなかった。彼らの多くは年上で、学ぶことが山ほどある。彼らと出会えたお蔭で、考え方も多少変わり、また毎日が有意義なものになった。これから近い将来、また彼らと会う日が必ず来る。その時のために、時々連絡を取り、一生の友にしたい。

いま、留学を終え、以前よりも将来のことをより考えるようになった。いままでは、大学選びに悩んでいたが、それではまだ不完全だった。大学よりも先が見える今だからこそ、それに最適な学校を選択できる。僕はそう思う。日本から出て、外から日本を見る。そして、また日本から世界を見る。やはり狭い家の中に閉じこもってはいけいない。ドアを開け、広い世界を見て、何かを感じる。

知らないものを知ることで、新たな考え方が見つかる。これは、説明だけではうまく伝えられない。なるべく多くの人に、このことを自分自身で知ってもらいたい。これだけの経験をし、辛いことももちろんあったが、行って良かった、と心から思う。また、留学に関して、考えを理解し、応援してくれた家族、特に両親に感謝をしている。今後の自分の生き方で、得たことを発揮できるようにしたい。

